
みんなの詩

おとぼけスミー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みんなの詩

【Nコード】

N2153P

【作者名】

おとぼけスミィ

【あらすじ】

作者とその仲間達が日々思った事を適当に詩にしたためます。
暖かい目で暇つぶしにどうぞ。

挨拶 澄田康美（前書き）

えーっと、この小説はわしとその仲間達が適当に詩を綴る小説です。日々思った事を思うままに書いてますので、出来不出来は勘弁してくださいね。

では、最初は挨拶でどうぞ。

挨拶 澄田康美

朝の挨拶 あはよう

朝起きて外に出る時に 行きかう人にする挨拶

元気なおはようや ちょっと弱めのおはよう

わしは一応元気なおはよう

おはようは普通したら帰ってくるんだけど たまに帰ってこない時もある

その時はもっと大きな声でおはようって言う

そうしたら あっちはちゃんとおはようって返してくれる

それでうれしくなって わしは笑顔になる

あっちは照れてる時が多いけどね

それじゃ またわしはおはようって言うかな

太陽さん おはよう

b y 澄田 康美

挨拶 澄田康美（後書き）

えーっと、とりあえず常時こんなノリでやりますだ
仲間達の紹介はいらないと判断しているので、次回からバンバン色
々出てきますだ。

まあ、次回もお暇がありましたらどうぞ。
ではまた。

P S 、これから前書き後書きは多分ないので・・・

虫 リゲル・ナイトバク

あら、虫が飛んでる

道を適当に歩いてたら 目の前を通り過ぎていった

早くてよく見えなかったけど 多分バッタかしらね

その道の先には 立ち往生するバッタがいた

私が足を持っていったら、すぐにどこかに飛んでいった

飛んで行く姿に なんとなく鳥が重なる

でも鳥はもつと優雅に飛んでる気がする

バッタは何だか必死に飛んでるって感じしかしない

でも 必死になって飛んでる姿の方がいいかな

だって人生は短いんだから

必死に生きて 人生を送った方がいいって思う

それじゃ ちょっとだけ背伸びしようかな

だって 今って時間が短いんだから

b
y
リ
グ
ル
・
ナ
イ
ト
バ
グ

数字 イフォード・クルエル

数字は素晴らしいものです

その一つ一つに 嘘偽りがないのですから

絶対普遍のそれは 他にはない物です

これはきっと 数字の良さでしょう

何かにつけて変わるものよりも ずっといい

ころころと変わっていく人間よりも ずっとずっといい

だけど それはあくまでそれまでの話です

変わらない良さと言っても 時代はずっと移り変わるもの

だから 変わらない良さなんて絵空事なのかもしれませんね

そして私めは ふと時計に目をやります

時間もまた 絶対に変わらないものだなと感心します

明日の私めは 今日の私めではありません

私は日々変わるのですから

それが 生きていると言う事ですから

b
y
イ
フ
ォ
ー
ド
・
ク
ル
エ
ル

遊び 澄田 千代

友達と遊ぶって楽しい

誰かと一緒にいるのって すごく楽しいの

まいちゃんとかいっくんとかともくんとか

みんなという時って すごく楽しい

あれれ？遊ぶ事って 楽しい事なのかな？

もしかしたら 本当に楽しい事って 友達という時なのかな？

あ でも いるだけじゃ面白くないや

だって 何もしてないだけじゃ楽しくないもん

だから遊ぶんだね

一人で遊ぶよりも みんなで遊ぶ方が楽しいもんね

だからみんなで遊ぶんだね

よーし 今日は何して遊ぼうかな

b y 澄田 千代

羽 角田 康代

私には羽なんてない

あるのは人間にあるものだけだ

だから 羽がある奴らがたまにうらやましく見える

だけど あの羽が欲しいとは思わない

あの羽は 私の腕に当たる部分らしいからな

こんな便利な腕を無くしてまで 羽が欲しいと思えない

それに私達は そんなものが無くても飛べるんだ

道具って奴を使えば いくらでも飛べる

まあ 自分の身一つで飛ぶのって もしかしたら楽しいのかもしれない

いや 鳥や虫にそんな感情があるかはわからない

だって彼らは 生きる為に飛んでいるんだから

飛ぶ為に飛んでいるんだから

じゃあ私は 明日の為に羽を広げるか

なぜなら私も 明日を生きていくんだから

b y 角田 康代

走る 吉田 康女

あとちよつとだ

あとちよつとで俺の順位は上がる

だけどそのちよつとがとんでもなく長く感じる

距離は俺の身長ぐらいの距離なのに

それでも十分な差なんだろうな

ちくしょう 次は絶対に追い上げてみせる

毎日毎日走って 俺はいつしか順位を上げた

だけど 上には上がいる

だから俺は もっともっと走る事にした

走って走って 前に行く事にした

そんな簡単には負けない

俺の気負いつてのを見せてやる

俺はいつか越えてみせる あの上を

それが無駄な努力であつても

b
y
吉田
康女

恋 澄田康美

なんで人って 恋をするんだろう

人だけじゃない 生きてる物ってみ〜んな恋をする

だけどさ 恋するって結構辛い事だと思っただ

だってさ こんなに胸が苦しくなるんだよ？

他の事に手が付かなくなるんだよ？

ずっとずっと 愛した人を思っちゃうんだよ？

それでも人って 恋をするよね

どうなるかわかってても 恋をしちゃうよね

だけどそれは仕方ない事だよ

誰かを好きになるって 止められない感情なんだからさ

わしはいつだって 恋をし続ける

暴走しちゃって 止まらないんだもん

b y 澄田 康美

後ろ リゲル・ナイトバグ

ちよつと振り向いてみる

そこには誰もいなかった

誰かいるなって気はしなかったけど 誰かいてもよかった気がした

またちよつと振り向いてみる

今度はそこに誰かがいた

誰かがいるなって気はしたけど 本当にいるとは思わなかった

いや きつと私の後ろには いつだって誰かがいるんだ

いつだって何かがあるんだ

それが今何となくわかった気がする

そう 何てことはない話だ

あるのは私の足跡で いるのはかつての私だ

そうか こんな簡単な事にようやく気づけただなんてね

前ばっかり見てたから 気づけなかったわ

リ
グ
ル
・
ナ
イ
ト
バ
グ

正しさ イフオード・クルエル

品行方正 こんな言葉ほど あいまいなものもありません

価値観と言うのは その場その時に大なり小なり変わるもの

かならず正解など まずありえない事です

されど皆 自分の答えが正解だと信じ おろかな答えを導き出して
します

いや その答えこそが 真に望んだ答えなのかもしれませんね

真に正しきを求めるのではなく 汚れ間違った答えを人は選ぶ

それが人という生き物なのでしょう

自然の姿のままでいる これこそが本当の品行方正ではないでし
ょうか？

ありのままに 何も飾らず 自分という姿を見せる

いえ 今の人間にこんな事は恐らく無理でしょうね

本当の意味で飾りを捨てるなど 人間には出来るわけがない

利口になったせいで 人は正しさを失ってしまったのでしょうか

それでもいいでしょう それが人間の正しさなのでしょうから

b
y
イ
フ
ォ
ー
ド
・
ク
ル
エ
ル

真っ直ぐ 澄田千代

真っ直ぐにいこう

回り道はしない 近道だってしない

だって迷いたくないもん

真っ直ぐ行かないと、すぐにでも迷いそうな気がするもん

余計な事はしないよ あくまで真っ直ぐに行くの

大丈夫 真っ直ぐ行って迷うわけないもん

誰かに道案内してもらえるわけじゃないけど 真っ直ぐ行くんだっ
たら大丈夫

怖くないよ だってずっと真っ直ぐだもん

その先にあるのは何かな 実はわからない 真っ直ぐ

それでいいと思うんだ

だって この先には絶対に何かあるもん

それがわかってるから うち真っ直ぐに行くんだよ

B Y 澄田 千代

光 角田 康代

まぶしい 光というものは とにかくまぶしい

私の目を隠し いやおうなしに視界を閉ざそうとする

されど 弱い光なら心地いい時もある

そう 強い光は むしろ闇を強めてしまう

弱い光なら 闇が強くなる事はない

私の影が それを教えてくれている

光あるところに影がある 闇がある

相反する二つのものは 常にその肩を並び合わせている

そうか これが共存というものが

いや もしかしたらお互い嫌いなのかもしれないな

嫌々で同居するなんて話は ありふれた事だからな

私だってそうだ いつも傍にいる奴はどこかいけ好かない

だけど やっぱり傍にはいてほしいって思う

何か足りない気がするからだ

b
y
角田
康代

人 ジェスター・惑井

人って どうしても信じられない

信じる事が出来ない

みんなみんな 自分の為に生きているようにしか見えないから

みんなみんな 隠し事をしているように見えるから

誰にも言えない事って 当然あると思う

だけどさ それぐらいは言っている事はあると思う

僕はそれを教えて欲しい 隠してないで打ち明けて欲しい

だって 人は言葉と心でわかりあえるんだから

当然喧嘩はすると思う もしかしたら相手を傷つけてしまうかもしれない

だけどさ それもまた人の良さだよな？

僕はそう信じてる 信じたい

だからさ 君の抱えている隠し事を みんなに打ち明けなよ

そうする事で 楽になる心もあるんだから

b
y ジェスター・惑井

歴史 カオス・ラファエル

地球が生まれた歴史はすげえ長い

それこそ 俺様なんかじゃ想像できないくらい長い

確か時間が生まれたのは 地球が生まれてかららしい

そこから 地球の歴史つてのは始まったんだ

色んな命が生まれては消えていく

そんなサイクルを繰り返す中で 人が歴史を綴ってきた

他の生き物がしなかった事を 人はし始めたんだ

考えてみれば 変な生き物だよなあ

他の生き物がしない事を 面倒だとわかっててもしている

何が面白くてやるのか 何の得があってしているのか 俺様にはさっぱりだ

だけど そんな無駄な事を積み重ねて 今の人間がいる

昔の人間はきつと 今の人間を見て微笑んでいるかもしれない

いや もしかしたらほくそえんでるかもしれない

まあ 所詮は歴史 今あつてこそその歴史だ

俺様達は 昔の人に胸を張っていられるんだろうかな

b y カオス・ラファエル

希望 澄田 白亜

希望 それは目の前にいつもある だけど手が届かない

なんでだろうね 目の前にあるのに 手で触れないなんて

もしかしたら それは見えてるだけで 実際は無い物なのかな？

わたしにはよくわからない だけど 希望は目の前にある

そのお陰で わたしは目の前を歩いていける

どんどん先に進める 迷う事もなく

そうだね 今は友達と一緒に この希望を追いかけていこう

きつとみんなと追いかければ その内追いつける 絶対につかめる

わたしはそれをただただ信じて 進んでいくんだ

大丈夫 わたしは一人じゃない あなただって一人じゃない

だって 希望は誰もが持てる心の欠片なんだから

b y 澄田 白亜

山 吉田 康女

お前はでかいなあ あたしよりもずっとでかい

お前よりでかい奴なんて そうそういないだろうな

あたしもいつか お前を越えてみたいと思ってる

だけど あたしじゃお前を超えるのは無理かな

じゃあ せめてお前のいる場所にまで上り詰めてやる

あたしは絶対にあきらめないぜ いつかお前にたどり着く

だけど それで満足するあたしじゃない

もっともつと上がいるのはわかっている

じゃあ いっその事一番上を上ってやろうかな

いや それはさすがに無茶だな

まずは目の前のお前がいるところまで上り詰めてやる

さあ あたしの底力を見せてやるぜ

b y 吉田 康女

故郷 クレセント・フィルムメール

故郷 それは懐かしい場所だと思う

そして、気づいたらそこに戻る事はあるかもしれない

我輩は戻りたいと思わない むしろ戻りたくない

あそこに自由はない 縛られ続ける毎日だ

懐かしむ事はあっても 戻りたくはないんだ

だけど やっぱり振り返りたくはなる

少しぐらいは 戻りたくもなる

いや やっぱり戻りたくはない

あの場所は 我輩が目指すべき場所ではないんだ

懐かしむことはしても 戻ってはいけない

我輩は自由でい続ける為に 故郷は捨てるべきなんだ

そこがもしかしたら 本当の楽土だったとしても

b y クレセント・フィルムメール

戦い 不動命 道乃

我は武士よ 戦こそが全ての武士よ

我に愛は要らぬ 家族も要らぬ 情も要らぬ

戦い続けれるのだ ただひたすらに

戦いの場では 余計な感情は全て不要

ただ自分が生き延び 相手を討ち取れるだけの精神があればいい

それだけで十分だ

戦場では 戦いこそが全てなんだ

それ以上でも以下でもない

我はひたすらに戦い続ける戦場ではそれでいいんだ

そうだ この戦いが終われば 我の戦いが終わるんだ

その時は ゆっくりと休みたいものだ

次の戦いに備える為に

b y 不動命 道乃

感情 K・Y

ああ げにわずらわしきはこの感情

持てばただ辛く 無ければ生きている事がつまらない

なぜ神は 相反するこれを人間に持たしたのだろうか

いや もしかすれば人間以外の生き物も持っているのかもしれない

しかし 人間以外の生き物で ここまで苦しむようなことがあるだろうか？

ここまで感情という物に苦しめられる生き物が 他にいるわけがない
それもまた思い過ごしかもしれない

だが わしには他の生き物が感情を色濃く持っているとは到底思えない

その瞬間に わしは考えてみたのである

本能と理性こそが 人が感情で苦しむ原因なのではないだろうか？

もしそうだとするならば 感情こそが今の人類の繁栄の理由なのかもしれない

そして 滅びへの道を歩むカウントダウンでもあるかもしれない

b
y
K
·
Y

希望 澄田 康美

手元に置いておきたい

だから必死にそれを追い求める

苦勞してでもそれが欲しい

だけど簡単に手に入らない

それでもいいからわしは求める

あれが欲しいんだ どうしても欲しいんだ

この手に掴んでみせる あのか細い光を

明日を生きる為の光を

大丈夫 わしならつかめる きつとつかめる

それを掴む術を知っているから

それがどうやったらつかめるのかわかってるから

だから大丈夫 わしはただ真つ直ぐにそれを掴むだけだ

あの一筋の希望を まぶしいほどの希望を

未来はあの希望にこそあるんだって信じてる

自然 リゲル・ナイトバグ

ありのままの風景 私はそんな自然な風景が好き

飾り立てなんてしない ただただ年月を経て出来た風景

人の手がないから出来る 自然が生んだ一つの芸術

それが魅せる絵は かげがえのない人生の1シーン。

忘れられないメモリー 消える事のない一行

地面ばかり見てると ふいに空を仰ぎたくなる

そして自然のレンズから見える空は なんだかいつもと違う色を見せていた

不思議で魅惑的で それでいてついつい身近に感じる

それが何だったかちゃんと思いつけないまま メモリーはどんどん追加されていく

それが思い出すことじゃなくて もっと違う意味だなんて事に気づいたの

答えは一つ 思い出すんじゃないくて 懐かしいって事だったのよ

学 イフォード・クルエル

人類これ全ては学び続ける生き物

人生全てを賭して 一生涯で 全てを学びに費やす

生きている事が学ぶ事 それが 人という定義

では 死んだ先で人は学ぶのでしょうか？

死んだ先には一体 どんな世界が待ち受けているのでしょうか？

それは死ななければわかりません

それもまた 世界の真理 世界の掟

だから 人は死を恐れる 死を忌み嫌う

否 人はもしかしたら 死後まで学びたくないのかもしれませんが

学ぶ事が生きている事の苦痛ならば 答えはきつと一つです

その苦痛から解放される死が 人の永遠の安らぎなのです

そして 学ぶ事が 人が人でいる為のしるべなのです

結晶 角田 康代

集まれ 集まれ そして一つの形をなせ

いつか砕けるかもしれない それでもいい 一つの形となれ

一つじゃ弱くても 集まればきつと強くなる

一人じゃ何も出来なくても 集まればきつと何かが出来る

君と私がいれば きつと何かが出来る

それを信じている 信じたい

私は君の手を握ろう 君は私の手を握っていてほしい

そして離さないでほしい ずっと掴んでいてほしい

離れてほしくないんだ 砕けたくはないんだ

ずっとずっと この形でいたいんだ

君と私は 一つの結晶にように 一緒に もろいかもしれない

だったら 砕けるまでずっと 一緒にいよう

砕ける時は 一緒にいよう

約束するよ 私はずっと ここにいるから 君の傍にいるから

友達 澄田 白亜

わたしと一緒に遊んで 今だけでいいから一緒に遊んで

わたしはただ遊びたいだけ ただみんなと一緒にいたいだけ

だから遊ぼう 遊ぼうよ 楽しい遊び

楽しいかな うれしいかな わたしはとっても楽しい とってもうれしい

遊ぶばかりじゃ嫌？ じゃあ 次は何する？

わたしは何でもいいよ 一緒にいれるなら 何でもいいよ

間違えないで わたしはみんなと一緒にいたいだけだから

この時間を 大切にしたいから かけがえのない時間を

ありがとう ありがとう みんなに会えてよかった

あ もうこんな時間だ そろそろ帰らないといけない

じゃあ また遊ぼうね また一緒に遊ぼうね

私は みんなと一緒にいる時間が好きだから

支配 レアル・ジエネクス・クロキシアン

もう逃げられないぞ お前は既にそれがしの手駒だ

安心しろ 全て忘れる 新しい仲間と それがしがいる

お前は一人じゃない それだけは約束しよう

かつての仲間は 仲間じゃない 敵なのだよ

これは裏切りではない 立場が変わっただけなのだ

お前は何も気にしなくていい それがしに身を委ねろ

そして お前の力を存分にふるってくれ

それがしはそれをしてくれるだけで満足だ

さあ 行くんた 新たなる同士よ

お前の味方は 今日からそれがしの味方だ

そしてこなせ 己の仕事を

かつての仲間は 敵だ 打ち倒せ

安心しろ 墓場に行く時は それがしも一緒だ

鎖 クレセント・フィルメール

我輩を縛るな 我輩はこんな鎖で縛れると思わないで

こんな鎖 我輩は断ち切ってみせる 絶対に断ち切ってみせる

新しい鎖に繋がれたって また断ち切ってみせるよ

永遠に繰り返す輪廻の輪 それでもいい 我輩の選択だから

我輩が縛られたい鎖は唯一つ 愛する人の鎖だ

それだけは断ち切りたくない 断ち切らせはしない

我輩はその鎖にだけにつながりたい ずっと

思いは空振るばかりでもいい きっとどうにかできるから

自由の代償に 我輩は不自由になる

それでもいいさ その不自由に 本当の幸せがあると信じているから

さて 手始めにこの鎖を断ち切ってみせよう

我輩を縛り続ける 運命と言う鎖を

愛 ミーティア・クルエル

私めは愛を知りました 永遠に続くと思じれる愛を

あの人と繋がっていると信じれる愛を

あの方は愛を求めています 四六時中いつでも

その時 私めはそつとあの方の傍に行きます

あの方はいつでも迎えてくれます あの人なりに迎えてくれます

暖かく そして優しく 私めを愛してくれます

この愛は偽りじゃない 本当の愛だと信じています

あの方との愛は 永遠にしたいといつも思っています

でも いつか 別れの時は来てしまいます

その時は 最高の愛を捧げたいと思っています

それこそ 今までにないほどの 至上の愛を

あの方の心に刻み込む 最高の愛を

助け アリーデル

困ってるの？ だったら手を貸してあげるね

わからないの？ だったら教えてあげるね

疲れてるの？ だったら休ませてあげるね

これぐらいわかってほしいと思っても わからないならあちきがい
るよ

いつだってあちきは 君の味方 みんなの味方だよ

おせっかいとか言わないで 世話好きって言うてほしいな

それでもあちきはいたって真剣 大真面目なんだから

大丈夫だよ あちきはそうそう間違えたりしないから

あちきに任せれば 万事うまく行くに決まってる！

え？その根拠はどこにあるのかだって？

根拠なら二つぐらいあるよ

一つはあちきがあちきを信じてる事 二つ目はあちきが君を信じて
るからだよ

それじゃ それを忘れないうちに あちきに委ねてよ

絶対後悔させたりしないからさ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2153p/>

みんなの詩

2011年11月14日20時48分発行